

感動の場

『巡礼家族』

1982年 小川原 脩 画

1981年8月、小川原脩は初めてチベットの首都ラサを訪れました。その中心に位置するジョカン寺を取り囲む巡礼路である八角街の賑わいに「ここはいかにも古いチベットが生き生きと呼吸している」という印象を記しています。

時は移り1999年2月、小川原本人が本稿「感動の場一点」に文章を寄せました。その時に取り上げた作品がこの「巡礼家族」なのです。かつて八角街の雑踏の中で目撃した母子。彼らのことを「適当な時間の休息を取りながら目的を達しているような、要領の良さもある」と述べ、^{たくま}逞しさをも感じていたようです。ぎゅっと寄り集まった家族の顔はみな、まるく、のっぺらぼうで、その顔立ちは見事に省略されています。太い輪郭線の墨色、土壁の薄茶色、衣服や仏の壁画と犬は青を帯びた灰色、そして母の袖には朱色。抑えられた色彩ながらも、それぞれの質感、存在感はしっかりと浮かび上がってくるようです。

現在開催中のミュージアムロード共同展（7/17～9/26）、木田金次郎美術館（岩内町）では、画家たちの旅に着目したテーマで貸し出された本作を観ることができます。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）



ふるさと探訪

460回

カラスとのソーシャルディスタンス

ヒッチコックの有名な映画「鳥」ではカラスの集団によって人間が襲われるという恐怖が描かれています。カラスといえば「人を襲う」というイメージを抱きますが、これは1990年代後半から2000年代初頭にかけて、マスコミが「カラス問題」を取り上げ、「凶暴化したカラスが歩行者を襲う」といったようなニュースが繰り返し流されたことがきっかけだといわれています。カラスはただ闇雲に人を襲っているのでしょうか？

カラスは本来、臆病な動物で、自分より大きな人間を自ら襲うことはありません。ただし、巣作りの期間、ひなを守るために攻撃的になり、威嚇する場合があります。「襲う」イメージはここから生まれたのでしょうか。人が巣に近づくと「カアカアカア！」と繰り返し鳴き、さらには、しゃがれ声で「ガララララ…」と警告を發します。鳴いても効果がない場合には、枝をくちばしで叩いたり、枝や葉を落としたり、さらには後ろから頭をかすめるように飛んだりといった威嚇を行います。それでも人が気づかない場合には最終手段として、頭を脚で蹴飛ばされることがありますが、鋭いくちばしを突き刺したり、つつき回すということはありません。

カラスであれ人間であれ、わが子に危険が迫ればそれを守ろうとするのは当然です。もし、知らずにカラスの巣に近付いてしまったときには、きっとカラスが知らせてくれるでしょう。威嚇に気づいた段階でその場を離ればカラスが襲ってくることはありません。



文：林 伸也（倶知安風土館 学芸補助員）

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展 生誕110年記念「チベット紀行」

1979年からはじまり中国・チベット・インドへと続く小川原脩のアジア歴訪。本展ではチベット訪問を経て描かれた、深い精神性を湛えた小川原脩晩年の作品の数々をご紹介します。柔らかな色彩に包まれるように描かれたチベットの情景をお楽しみください。

会期：開催中～9月26日(日)

■第2展示室

しりべしミュージアムロード共同展20回記念「ザ・ベスト展」

今年で20回目の「しりべしミュージアムロード共同展」。各館の代表的な作品を、それぞれの館が選んだ過去のテーマに合わせて持ち寄ります。当館は第1回目のテーマ「海と山と田園と」。

会期：開催中～9月26日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

①世界のグレートアーティスト(14)「ミレー 農民画の巨匠」

日時：8月7日(土)14時～15時 会場：映像ルーム(無料)

お話：柴 勤(館長)

②京都逍遙(2)「千年の時を越えて(洛中二)」

日時：8月21日(土)14時～15時20分 会場：映像ルーム(無料)

お話：柴 勤(館長)

③おとなの手しごと(5)「模写に挑戦！～しりべしの画家編～」

日時：8月28日(土)14時～16時 会場：ロビー(無料)

お相手：沼田 絵美(学芸員) 定員：10名 ※要予約

■ギャラリー・トーク

「小川原脩とチベット」

日時：8月14日(土)14時～14時30分 会場：第1展示室(無料)

お話：沼田 絵美(学芸員)

■金曜ナイトサロン

「美術館でフランス語～ゼロからの旅立ち⑨・⑩」

日時：⑨8月6日(金) ⑩8月20日(金) 各18時～19時

会場：映像ルーム(無料) お話：柴 勤(館長)

定員：5名程度 ※要予約

倶知安風土館イベントのお知らせ

■寺子屋ミュージアム(小中学生向けイベント)

「作ろう！知ろう！ニセコ連峰①」

石こうでニセコ連峰のミニチュアを作ってペイントしながら地形や自然について学びます。今回はニセコアンヌプリ周辺です。

日時：8月6日(金)13時～16時30分 場所：風土館 定員：10名 ※要予約・先着順

講師：古市 竜太さん(マウンテンガイド・コヨーテ主宰)

参加費：300円/1個(1人2個まで ※最低1個はペイント)

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※()内は10名以上の団体料金

8月の休館日 毎週火曜日

ちょっとお出かけ！

フランス人お気に入りの外出先は、1位が映画館。パリ市内のあちこちでは実によく映画館を見かけます。2位は美術館。パリ市内には一体どれだけの美術館があることや。そして3位がコンサート。プロもアマも街の至る所で夜明けまで楽しむ音楽祭があるくらい。

このように、日常の中で芸術や文化に触れるために出かけることを、フランスでは「ソルティ・キュルチュレル(文化的な外出)」と呼びます。この文化を意味するキュルチュレル(英語ではカルチャー)という言葉、元々は農作業を指します。そこから心を耕して豊かにする「文化」という意味が生まれたというわけです。

さあ皆さんもソルティ・キュルチュレルへ！

館長 柴 勤